

# 2016年度 事業計画

1. 事業の概要
2. 事業の区分
3. 事業計画
4. 委員会委員等一覧
5. 関連諸団体委員等一覧

## 法人の概要

日本麻酔科学会の大きな使命は、安全で質の高い医療を提供するための事業活動を通して、国民の健康と福祉の増進に寄与することである。本学会はこの使命を達成するため、これまで麻酔科専門医の育成や国民への啓発をはじめとする種々の取り組みを行ってきた。2011年4月1日に公益社団法人に認定され、本学会の社会貢献の役割が更に明確化されたところである。

本学会の発展と向上のためには、多岐にわたる情報収集と的確な状況把握が不可欠であり、「日本麻酔科学会中期・長期計画」を2008年度に策定、2011年度、2014年度に改定した。それに基づき単年度の事業計画を作成している。

### (基本方針)

以上の状況を踏まえ、本年度は次の4点を軸に事業計画を策定した。

- (1) 公益法人として従来の取り組みを検証しつつ、事業の明確化を図る
- (2) 学会理念、中期・長期計画に基づき、より効果的な計画を立案する
- (3) 定款及び内部規程に沿った業務運営を徹底させ、組織の強化を図る。
- (4) システムを構築し、基本情報の整備を行う。

## 1. 事業の概要

本学会は、以下の理念を掲げ事業を行う。

公益社団法人日本麻酔科学会（以下、本学会という）は、周術期の患者管理を中心としながら、救急医療、集中治療、疼痛管理、緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で安心できる医療を提供する。

### (1) 質の高い麻酔科医の育成

質の高い麻酔科医とは、周術期管理、侵襲制御、疼痛管理等において優れた知識と技術、およびコミュニケーション能力を有し、チーム医療を中心的に担える者である。本学会は知識や技術、能力を習得するためソフト面およびハード面を整備し、次世代の日本の医療を十分に担う質の高い麻酔科医を多く育成する。

### (2) 先進的研究の推進と新たな医療技術の創成

医療において人類の幸福に役立つ新しい知見や技術の創成が重要である。本学会はそのような研究を支援し、得られた発見（知見）や技術、情報を社会に提供する。

### (3) 麻酔科医療の啓発

国民が安全で安心できる医療を受けるには、国民に対し麻酔科医療に関する正しい知識や認識を提供する必要がある。本学会は広報活動や日常の診療を通じて国民に麻酔科医が担う医療の役割や重要性を啓発し、その認識を普及させる。また、医学生や研修医に対しても麻酔科関連医療の重要性を啓発し、麻酔科専門医の拡充を図る。

### (4) 他領域との協働

患者中心の安全で質の高い医療を供給するために、本学会は他科の医師や看護師、薬剤師、臨床工学技士などのコメディカルと真のチーム医療として周術期管理チームを組織し、それを実践する基盤を確立する。

### (5) 国際的な医療連携への貢献

麻酔関連領域における国際的医療水準を高めることは重要である。本学会は世界各国との連携のもとに国際的な医療人の育成や組織作りを推進する。世界麻酔科学会（WFSA）及びアジア・オーストラレーシア地区（AARS）の一員として、とくにアジア地域と人材および知識交流に努める。

## 2. 事業の区分

理念に基づく事業区分を公益法人申請にあたり、以下の通りとした。

### (1) 公益目的事業

公1 麻酔科学の新たな発展のために国内外の先端的研究を奨励・推進・支援し、あわせて国内外の関連学術団体をはじめ関係方面と研究・協力をを行い、もって新しい技術と正しい知識の普及・啓発を図り、その成果を社会に還元する事業（学術事業・交流事業）

公2 麻酔科関連業務に関わる者が専門的知識や技術を習得するために、研修並びに医師、医療従事者及び施設への審査・認定を実施し、あわせて麻酔科関連医療に関わる調査および研究の推進を図り、特に麻酔科関連の事故症例の検証により再発防止に努め、もって社会に安全で良質な医療を提供するための事業（教育事業・安全事業）

公3 一般市民が安全で安心できる医療を受けるために、医療に関する正しい知識や認識の向上を図り、さらに麻酔科医が担う医療の役割や重要性を啓発し、普及させる事業（公益事業）

### (2) 収益事業等

収1 医師賠償責任保険、所得補償保険の加入仲介事業

収2 展示出展事業

### (3) その他（管理運営部門）

## 3. 事業計画

### (1) 公益目的事業

事業区分にある公益目的事業公1、公2、公3にある事業を組織運営上、委員会に割り振り運営を行う。

公1は、学術事業、交流事業であり担当委員会は、以下の通りである。

- ・学術委員会
- ・国際交流委員会
- ・関連領域検討委員会

公2は、教育事業、安全事業であり担当委員会は以下の通りである。

- ・教育委員会
- ・安全委員会

公3は、公益事業であり担当委員会は以下の通りである。

- ・広報委員会
- ・麻酔博物館事業検討委員会

### (2) 収益事業

収1は、医師賠償責任保険、所得補償保険の加入仲介事業を実施する。

収2は、学術集会開催時に附設展示会を実施する。

### (3) 管理部門

管理運営部門として以下の組織を置き、運営を行う。

- ・総務委員会
- ・財務委員会
- ・倫理委員会
- ・事務局

各委員会の委員長は理事とし、統括として常務理事をおいて運営を行う。以下に各委員会の事業計画の概要を記す。

## (1) 公益目的事業

### <公1：学術・交流事業>

#### 1) 学術委員会（委員長：山蔭理事 担当常務理事：稲田理事）

##### ・学術集会運営

2016年度は事業の検証を行いつつ、変更すべき点は改善する。5月26日～28日年次学術集会、9月第1週～第2週にかけて支部学術集会を開催する。また、セッション毎の参加者状況を把握・分析し、今後の企画に反映させる。さらに、年次学術集会を長期的な視野で捉え、開催場所、時期、テーマの大枠の検討を開始する。日本専門医機構認定講習会の機会提供の場として、年次学術集会では学術集会企画外の時間帯に講習会を設定し、支部学術集会については、企画内に同講習会を設定する。これら企画作成への学術委員会の関与を行う。

##### ①第63回学術集会（開催予定）

日 程：2016年5月26日（木）～5月28日（土）

場 所：福岡国際会議場，マリンメッセ福岡，  
福岡サンパレスホテル&ホール，ホテル日航福岡

会 長：外 須美夫

テーマ：「Harmony, Safety and Responsibility 命をつなぐ水脈となれ」

※各種講演，シンポジウム等を実施する。

##### ②支部の学術集会（各支部で合計6回）

北海道・東北支部第6回学術集会（会長：森本 裕二）

2016年9月3日（土） 於：北海道大学 学術交流会館

関東甲信越・東京支部第56回合同学術集会（会長：稲田 英一）

2016年9月3日（土） 於：虎ノ門ヒルズ

東海・北陸支部第14回学術集会（会長：宮部 雅幸）

2016年9月10日（土） 於：三重県総合文化センター

第62回関西支部学術集会（会長：西川 精宣）

2016年9月3日（土） 於：大阪国際交流センター

中国・四国支部第53学術集会（会長：森松 博史）

2016年9月10日（土） 於：岡山コンベンションセンター

九州麻酔科学会第54回大会（会長：坂口 嘉郎）

2016年9月3日（土） 於：佐賀市文化会館

##### ・機関誌・準機関誌等の発行・頒布，査読編集

国内外の研究業績については、2ヶ月ごとに機関誌「Journal of Anesthesia (6号: Vol. 30-No. 2～Vol. 31-No. 1)」を約12,300部発刊し、会員、官公庁、研究者、国内外の関連する学術団体等に頒布する。会員宛にはJournal of Anesthesiaの目次をメールで配信する。さらに、インターネット

トを媒体として情報を提供し、インパクトファクター（引用度）向上のための具体策を検討する。2015年度に、臨床研究を活発にする目的で新たに創刊したJA Clinical Reportsについては、投稿論文数の向上のための普及活動を継続する。準学会誌「麻酔」は月刊で12号（Vol. 65-No. 4～Vol. 66-No. 3）を発行する予定であり、学術集会のプログラムは客観的で公正な査読を行ったうえで、無料で会員に配布する。抄録については、会員専用ホームページ掲載し、会員以外には抄録閲覧可能なパスワード付プログラムを販売し、学術集会プログラム及び抄録の閲覧可能な携帯情報端末用アプリを開発予定である。査読・編集に関しては、関連分野に精通した臨床家や研究者を充てて行い、質の高い情報を提供している。

・学術研究の奨励、支援

①学術研究の奨励

臨床研究を支援・推進するため、学会支援型臨床研究を公募し、一定の要件を満たした研究に対し支援を行う。

②学術論文雑誌、医療関連雑誌、映像等の収集・集約化（学術関連資料アーカイブ事業）

麻酔博物館を設置しているが、国内外の麻酔科関連分野の学術論文、医療関連の雑誌・映像等をそこに収集・集約し、医学・医療について正しく理解できる場を、会員はもとより一般市民やマスメディアに提供する。また、年次学術集会で行う教育講演の映像を録画し、教育資料として保存するとともに、e-learningとして配信する。

③研究業績等の表彰（研究表彰事業）

学会賞5賞（山村記念賞・青洲賞・若手奨励賞・松木賞・社会賞）の選考を行い、顕彰する。

**2) 国際交流委員会（委員長：横山理事 担当常務理事：萬理事）**

国外団体との協力の面から、諸外国の麻酔科関連国際団体との交流促進するため、WFSA（世界麻酔科学会連合）が世界各地に対して行う活動への協力体制の確立、東アジアの学術基盤を形成する。2016年度は、香港で8月28日から開催される世界麻酔科学会議（WCA2016）に代表団を派遣し、第63回学術集会時に第4回東アジア麻酔学会を中国、韓国と共同開催する。人的交流の面からは、発展途上国の麻酔科医に対する教育講演を行う事業として、Micronesia Anaesthetic Refresher Courseに講師の派遣を行う。また、ASA International Focus Groupに講師の派遣を行う。さらに、留学生を受け入れ、発展途上国の麻酔科医の人材育成に寄与する。知識交流の面からは、英語版学会ホームページの充実のために、ガイドライン、認定制度の紹介等、英訳し掲載する範囲の検討及び英訳の継続実施を行う。

**3) 関連領域検討委員会（委員長・担当常務理事：白石理事）**

「他領域と協働する医療」に関連する交流事業戦略の下、集中治療、疼痛治療、緩和医療など麻酔科関連領域部門との関わりについての検討を行う。2016年度は第63回学術集会関連領域検討委員会企画を実施する。また、2015年度に改訂される心肺蘇生に関するガイドラインの普及を行うとともに、各地方のトレーニングサイトに委託し、BLS講習会、ACLS講習会を開催する。AHA Resuscitation Scientific Sessions 2016に参加する。

## <公2：教育・安全事業>

### 1) 教育委員会（委員長・担当常務理事：稲田理事）

#### ・教育プログラム等の策定

麻酔科医の生涯教育としての段階的目標を掲げ、その達成のための再教育プログラムの提供を行い、それによって均質な医療水準の維持と普及をはかる。

#### ・麻酔科関連業務に関わる医師，医療従事者，施設の審査・認定

麻酔科医は、周術期管理，救急，集中治療，ペインクリニック，緩和医療，総合診療などを主たる活動領域とし、医学・医療全般に深く関わっている。これらの分野での経験年数，研究実績，医療従事者や一般市民への指導・教育実績等の段階的到達目標を設定し、到達度にあわせて、麻酔科認定医，麻酔科専門医，麻酔科指導医という資格を認定しているが、2016 年度も引き続き認定を行う。また、安全で質の高い麻酔科関連医療を格差なく社会に提供するため、施設の認定も引き続き行い、2015 年度から始まっている専門医研修体制である麻酔科研修プログラムの認定も引き続き行う。更に麻酔科医と共に周術期業務に従事する多職種の非会員について、実務経験，所定の教育効果を測る目的で周術期管理チーム認定を行う。

所定の内規に則り下記資格ならびに施設の認定を実施する。

#### ①認定医等の新規認定，資格試験の実施

2016 年度は、2015 年度に引き続き 4 月・8 月・12 月の計 3 回認定審査を実施する。

#### ②新規専門医

2016 年 9 月 25 日，9 月 30 日，10 月 1 日～2 日，第 55 回麻酔科専門医認定試験を実施する。

筆記試験：9 月 25 日実施

会 場：TOC 有明（東京会場），神戸ポートピアホテル（神戸会場）

口頭試験・実技試験：9 月 30 日，10 月 1 日～2 日実施

会 場：神戸ポートピアホテル（神戸会場）

#### ③新規指導医

2016 年 11 月に、2016 年度麻酔科指導医新規認定の審査会を実施する。

（申請期間：2016 年 7 月 1 日～8 月 31 日）

#### ④新規認定病院

2016 年度は、2015 年度に引き続き 4 月・8 月・12 月の計 3 回認定審査を実施する。

#### ⑤認定医等の資格更新審査

麻酔科指導医，専門医，認定医資格更新対象者の認定審査を実施する。

（申請期間：2016 年 9 月 1 日～10 月 31 日）

#### ⑥認定病院更新

麻酔科認定病院更新対象施設の認定審査を実施する。

（申請期間：2016 年 9 月 1 日～10 月 31 日）

#### ⑦麻酔科専門医研修プログラム

2016 年 8 月に 2016 年度から新たに開始する麻酔科専門医研修プログラムの更新審査を実施す

る。(申請期間：2016年7月1日～7月31日)

#### ⑧周術期管理チーム認定資格新規審査

2015年度に引き続き、麻酔科医と共に手術室業務に従事する多職種の非会員について、実務経験、所定の教育効果を測る目的で周術期管理チーム認定を行う。2016年度については看護師を対象に2016年5月15日～6月末日に認定申請受付を行い、審査の上下記概要で筆記試験を実施する。2016年度からは薬剤師も対象とし、周術期管理チーム認定を行う予定である。

##### 筆記試験開催概要

日 程：2016年11月12日

会 場：TOC 五反田メッセ (東京会場)、神戸ポートピアホテル(神戸会場)

#### ・生涯教育・研修

質の高い麻酔科医の育成のため、周術期管理、救急・集中医療、ペインクリニック、緩和医療等、危機管理、最新のトピックスについての新しい知識の定着を目的とした教育講座を開催している。現在までに計14回の開催実績があり、受講者は1回につき1000名を超えている。従来は麻酔科専門医試験受験者を対象とした内容であったが、2011年度からは麻酔科専門医取得済みの麻酔科医も対象とし、開催コース数を拡大するとともに麻酔科関連のガイドライン解説のコースを新設した。2016年度は、40コース開催する。また、2019年度から専門医更新制度が、日本専門医機構に順次移管することから、2015年度から引き続き日本専門医機構認定専門医の認定基準に応じた運用検討および、2017年度より開始する日本専門医機構認定研修プログラムの整備基準の導入に関する検討を行い、本学会会員に周知を行う。また、日本専門医機構認定専門医研修プログラム認定、新規、更新申請に関わる事務の代行業務を請け負う。具体的には、他の麻酔関連学会での日本専門医機構領域講習、専門医共通講習の月次の申請受付、2017年度から開始する日本専門医機構研修プログラムの申請受付および、事前審査業務、2018年度以降に開始する研修プログラムについて、2016年12月を目処に、審査を行う。

#### ・教育普及

麻酔科関連医療が十分普及していない諸外国において、教育講座等の開催、また周術期(手術前・中・後)の麻酔科業務について協働する医療従事者の教育を行い、その成果を当該国の社会に還元している。2016年度はチーム医療推進のため、看護師、薬剤師、臨床工学技士を対象としたセミナーを年次学術集会、支部学術集会(6支部)と併催する形で開催する。周術期における手術室業務全般に関する教育内容・方法・試験問題作成については周術期管理チーム委員会で検討を行なう。2016年度には周術期管理チームテキスト第3版と試験問題解説集の発行を行う。さらに、2016年度に薬剤師認定を開始出来るよう、具体的な検討・検証を進める。また、蘇生教育として心肺蘇生法を個人・団体に提供できるよう医師、医療従事者の教育と指導者の養成を行う。関西支部においては主として若手医師を対象とした症例検討会を年3回開催する。

## 2) 安全委員会 (委員長：瀬尾理事 担当常務理事：西脇理事)

#### ・麻酔科関連医療の安全性の担保

麻酔科関連医療の安全性向上のため、事故調査、分析を行う。偶発的に発生する事故を分析する偶発症例調査は1993年から毎年1回行っており、2016年度も引き続き実施する。また、同調査と同時に周術期肺血栓塞栓症発症例調査を行う。両調査の2015年度調査の成果は2016年度中に分析を行い、公開する。本学会が開発した麻酔台帳JSAPIMSを利用し、麻酔科認定施設から周術期医療に

関するデータを収集、活用するとともに、新専門医制度への対応および他学会との症例データベースの移行が可能となるようソフトの開発を行う。

麻酔関連機器の故障調査、麻酔薬および関連薬品等の適正使用に関する情報は会員および麻酔関連機器、薬剤メーカーから情報を収集し調査を進め、その成果は会員のみならず一般市民やマスメディアにもホームページを介して公開する。

団体契約を結んでいる保険会社から提供される個人情報进行分析し、事故再発予防策を立てる Closed Claims Project については、保険会社3社を対象に2016年度調査を行い、その結果を2015年度以前の累積データに付加し解析する。

## ・各種調査の実施

### ①麻酔関連偶発症例調査

偶発症例調査 2016 (2016. 1. 1～2016. 12. 31) : 麻酔科認定病院を対象に実施する。

### ②麻酔関連機器故障情報調査

麻酔関連機器で故障が発生した場合、あるいは規格自体に問題がある機器に関して常時窓口を設け、ホームページを通じて常に情報を収集し、即時にフィードバックを行う。

### ③Closed Claims Project の推進と研究

団体契約を結んでいる保険会社から得たデータを分析し、予防策を普及する。2015 年度に引き続き 2016 年度版の『医療紛争ゼロを目指して』という冊子を作成する。

### ④周術期肺血栓塞栓症発症例調査

わが国における周術期肺血栓塞栓症の発生状況、予防法、治療法等に関して現状を把握するために、日本麻酔科学会認定病院において、2016 年の周術期肺血栓塞栓症に関するアンケート調査を実施する。

## ・リスクマネジメント

感染対策として、本学会年次学術集会で感染対策、手術安全に関するシンポジウムを実施し、ICD 制度協議会への加盟を目指す。

## ・各種ガイドライン、指針の改訂・作成・検討

各種ガイドライン、指針については以下のとおり作成・公開、検証・検討を行う。

### ①作成・改訂・公開

- I. 安全な医療を実施するためのガイドラインの公開事業として、悪性高熱症ガイドラインを公開する。
- II. 新たに局所麻酔薬中毒に関するガイドライン、アナフィラキシーに関するガイドラインを作成する。
- III. 安全な中心静脈カテーテル挿入の手引きを改訂する。
- IV. 医師への教材提供として、新しい知識の定着を目的とした教育講座テキストを作成し、会員を対象に公開する。
- V. 周術期禁煙ガイドラインに関する、患者向けのポスターを作成する。
- VI. これまで作成したガイドラインについての英語訳版を作成する。

### ②検証・検討

2015年度までに公開した指針、ガイドラインについて改訂の必要性を検証する。

アメリカ麻酔科学会等、代表的な学会が公表している麻酔関連機器に関するガイドラインの調査を行い、新しいガイドライン作成の必要性を検討する。

他団体と協力し、手術室の安全管理について検討を進める。

以上の他に、WHOの手術安全チェックリストの普及を進める。また、本学会が認定する専門医のいる医療施設の公開、更新を行う。

### <公3：公益事業>

#### 1) 広報委員会（委員長・担当常務理事：萬理事）

本学会の活動を広く社会及び本学会会員に広報する普及啓発事業戦略をたて、一般社会、各種マスコミ、会員、臨床研修医、医学生、及び関係各省庁に向けた活動・検討を行う。

##### ・医療全般、医療事故等の相談窓口

一般市民からの麻酔科関連医療に関する質問を電子メール、文書等で受け付け回答する。

##### ・メディア戦略の検討・実施

取材協力、ニュースリリースの配布などを積極的に実施し、マスメディアを通じて広く社会に麻酔科関連医療を正しく理解してもらうための活動を行う。2012年度に開設したFacebookをはじめ、2015年度から開始したメールマガジンを継続配信し、会員へ麻酔科学会動向周知を図る。一般市民を対象にした啓発活動として、2014年度に開設したHPのコンテンツを更新し、10月13日（木）麻酔の日に麻酔に関する新聞記事を掲載する。また、医学生、卒後臨床研修医向けに麻酔科を紹介するHPメニューを新規作成する。

##### ・臨床研修医、医学生に向けた活動

医学生、臨床研修医を対象に麻酔科業務の重要性、面白さを広報する。学術集会への無料招待、講演会などを企画する。また、臨床研修医を対象にしたパンフレットの配付や研修医向けイベントへの出展を行う。

##### ・会員・市民への出版物発行

①公益社団法人日本麻酔科学会ニューズレターを4号（Vol.24-No.2～Vol.25-No.2）発行する。

関西支部：近畿麻酔科医界第66号（8月）、第67号（2月）を発行

九州支部：年報40号を発行予定

②一般市民向けにわかりやすく麻酔について解説した「麻酔のしおり」を作成し、実費程度の廉価で全国の医療施設に販売する。

#### 2) 麻酔博物館事業検討委員会（委員長：木内理事 担当常務理事：齋藤理事）

麻酔博物館事業として、麻酔博物館の運営を行う。麻酔科関連医療について今日の医療が確立されるまでの歴史的展示物を公開し、併せて最新機器を展示・収蔵し、正しい医療知識の普及を図る。麻酔関連の医療に関して、実際どのようなことが行なわれているのか情報が少ないため、医療現場を再現し、目で見て体感してもらい、よりわかりやすい形で情報を得られる施設を目指す。2016年度は定期的に団体を受け入れ啓発を行うほか、継続的に資料収集を進める。また、2021年に開催される麻酔科学史国際シンポジウムを誘致することが決定しているため、展示物の英語併記、新たな展示コ

一ナーの設置を完了するとともに、関連海外学会に参加し、誘致活動を行う。また、黎明期に活躍した麻酔科医へのインタビューを実施する。

## **(2) 収益事業**

### **<収 1 >**

医師賠償責任保険の団体加入契約ならびに所得補償保険について、損害保険ジャパン日本興亜株式会社、三井住友海上保険株式会社、東京海上日動火災保険株式会社と締結し、その仲介事務事業を行う。

### **<収 2 >**

第 63 回学術集会（2016 年 5 月 26 日～28 日）開催、9 月の第 1 週～第 2 週に各支部学術集会開催時に、医療機器、医薬品、検査機器、医療情報示説、書籍等を対象として出展を実施し、本学会は展示小間を提供する。

## **(3) その他（管理運営部門）**

### **1) 総務委員会（委員長・担当常務理事：齋藤理事）**

学会理念達成のため、麻酔科診療発展・医療貢献事業戦略、社会保険における麻酔科診療の評価の見直しおよび麻酔科医の労働環境の改善・整備に関する事業戦略を検討する。学会組織に係わる事項、すなわち組織運営に関する事項、会則検討に関する事項を担当する。

2016 年度は名誉会員をはじめとする社内業務、他団体との渉外活動、渉外活動検討部会では渉外活動に関する検討とその根拠データの収集、会則検討部会では会則の検討、社会保険部会では平成 28 年度診療報酬改定の反省と平成 30 年度診療報酬改定に向けての検討を行う。

### **2) 財務委員会（委員長・担当常務理事：西脇理事）**

学会の財務基盤を長期的に安定させるため、適切な事業計画作成を可能とするために、過去の予算案、決算書、財務管理の実績と現状を分析し、将来的予測を見据えて正確な資金計画をたてる。学会の円滑な業務執行を可能にするために、健全な財務状況を維持するような計画を立案する。

2016 年度は、2015 年度決算報告ならびに 2016 年度予算の補正検討、2016 年度各月月締め決算検討、第 63 回学術集会決算関連の検討、2017 年度予算案について検討等を行う。

### **3) 倫理委員会（委員長：鈴木理事 担当常務理事：齋藤理事）**

麻酔科関連領域の医学・医療の倫理に関する事項を検討する。麻酔中の医療事故、医療関連死について検討を行う。また、各委員会で企画・施行されるアンケートおよび研究について倫理的問題の有無を確認する。

### **4) 事務局（事務局長：白石理事）**

#### **・事業運営について**

事業運営が策定した業務チェックリストに沿って行われているか確認し、円滑な事業運営のための改善を行う。また、各事業から提出された事業報告書の確認を行い、運営が適正に行われたか否かを確認し、半期に一度事業監査を実施する。事業計画についても同様に、適正な事業か否かを判断し、財務委員会と連携して次年度予算作成と併せて審議を行う。

・システムの開発

会員情報の総合システムについて、現行のシステムの検証を進めるとともに、運用の変更に合わせた新機能の追加等更新を順次進めていく。合わせて広報委員会と連携して、本学会ホームページの更新を進める。

## 5) その他

・登録・派遣

日本学術会議、日本医師会、日本医学会、厚生労働省医道審議会標榜医審査会、日本専門医機構、大学評価・学位授与機構、外科系医学会社会保険委員会連合、外科関連学会協議会、日本救急医療財団、日本蘇生協議会、3学会合同呼吸療法士認定委員会、医療機能評価機構、日本骨髄バンク、日本臓器移植ネットワーク、全国MC協議会、全国医療安全共同行動、日本歯科麻酔学会、禁煙学術ネットワーク、WFSA、AARS等に委員を派遣し、各々の目的と事業に合わせ連携・協力予定。

・各種学術集会協賛・後援

関連協力団体の学術集会および講習会、市民公開講座等を協賛・後援予定。

## 4. 2016年度委員会委員等一覧

<事務局>担当常務理事：白石 義人

事務局長：白石 義人

事務局：足立 健彦 上山 博史 森崎 浩

アドバイザー：工藤 一大 多田 恵一 増田 純一

神戸事務局

東京事務所

[選挙管理委員会]

委員長：工藤 一大

委員：白石 義人 顧問弁護士

[ハラスメント対策室]

室長：木内 恵子

委員：鈴木 健二

オブザーバー：顧問弁護士

<常置委員会>

【総務委員会】担当常務理事：齋藤 繁

委員長：齋藤 繁

副委員長：尾崎 眞 鈴木 宏昌

委員：小坂橋俊哉 佐藤 哲文 竹内 護 谷口 巧 土田 英昭

〔社会保険部会〕

部 会 長：落合 亮一

部 会 員：天谷 文昌 岩瀬 良範 上園 晶一 桑内 亜紀 塚田 さよみ  
寺嶋 克幸 森崎 浩 横田 美幸

〔会則検討部会〕

部 会 長：齋藤 繁

部 会 員：河本 昌志 鎮西美栄子 前原 康宏

〔渉外活動検討部会〕

部 会 長：土田 英昭

部 会 員：落合 亮一 小板橋俊哉 中塚 秀輝 萬 知子

〔標榜医制度見直し検討ワーキンググループ〕

W G 長：落合 亮一

メ ン バ ー：稲田 英一 大嶽 浩司 澤 智博 白石 義人 山田 芳嗣

オブザーバー：齋藤 繁

〔新専門医制度詳細検討プロジェクト〕

P J 長：齋藤 繁

メ ン バ ー：稲田 英一 西脇 公俊 山蔭 道明

【財 務 委 員 会】担当常務理事：西脇 公俊

委 員 長：西脇 公俊

副 委 員 長：足立 健彦

委 員：藤野 裕士 森崎 浩

【倫 理 委 員 会】担当常務理事：齋藤 繁

委 員 長：鈴木 利保

副 委 員 長：牛島 一男

委 員：北村 晶 世良田和幸 山口 重樹

【学 術 委 員 会】担当常務理事：稲田 英一

委 員 長：山蔭 道明

副 委 員 長：山崎 光章

委 員：浅井 隆 垣花 学 川真田樹人 小竹 良文

福田 和彦 山浦 健 山田 芳嗣

◆会長1名・副会長3名

会 長：外 須美夫

副 会 長：土田 英昭 河本 昌志 西脇 公俊

〔第64回学術集会実行委員会〕

委 員 長：土田 英昭

副 委 員 長：河本 昌志

委員：磯野 史朗 内野 博之 大嶽 浩司 小川 真生 奥富 俊之  
川股 知之 坂口 嘉郎 藤野 裕士 森松 博史 山浦 健

〔第 65 回学術集会実行委員会〕

委員長：河本 昌志

副委員長：西脇 公俊

◆ 第 64 回学術集会循環ワーキンググループ

W G 長：山浦 健

メンバー：北川 裕利 田中 克哉 中島 芳樹 原 哲也 山崎 光章

◆ 第 64 回学術集会呼吸ワーキンググループ

W G 長：磯野 史朗

メンバー：大塚 将秀 甲斐 哲也 木山 秀哉 車 武丸 鈴木 昭広

◆ 第 64 回学術集会神経ワーキンググループ

W G 長：内野 博之

メンバー：垣花 学 倉田 二郎 田辺久美子 坪川 恒久 山口 重樹

◆ 第 64 回学術集会小児・産科ワーキンググループ

W G 長：奥富 俊之

メンバー：大瀧 千代 何 廣頤 川名 信 照井 克生 水野圭一郎

◆ 第 64 回学術集会ペイン緩和・局所麻酔ワーキンググループ

W G 長：川股 知之

メンバー：天谷 文昌 住谷 昌彦 高雄由美子 橋口さおり 服部 政治  
濱田 宏 南 敏明

◆ 第 64 回学術集会救急・ICU ワーキンググループ

W G 長：藤野 裕士

メンバー：今泉 均 川前 金幸 谷川 攻一 谷口 巧 長谷 敦子

◆ 第 64 回学術集会麻酔科関連ワーキンググループ

W G 長：森松 博史

メンバー：片山 勝之 佐藤 健治 讃岐美智義 白神豪太郎 尾頭希代子  
萬 知子 萬家 俊博

◆ 第 64 回学術集会麻酔全般ワーキンググループ

W G 長：坂口 嘉郎

メンバー：北村 晶 澤 智博 重見 研司 徳嶺 譲芳 西川 精宣  
宮部 雅幸

〔学術研究推進専門部会〕

部 会 長：川真田 樹人

部 会 員：浅井 隆 内田篤治郎 落合 亮一 垣花 泰之 川口 昌彦  
藤野 裕士 増井 健一 森松 博史

〔麻醉科学用語専門部会〕

部 会 長：小竹 良文

部 会 員：江木 盛時 鈴木 孝浩 角倉 弘行 益田 律子

〔機関誌専門部会〕

部 会 長：山蔭 道明

部 会 員：磯野 史朗 市瀬 史 上村 裕一 齋藤 繁 照井 克生  
土田 英昭 橋本 悟 平田 直之 廣田 和美

〔Journal of Anesthesia Editorial Board〕

Editor-in-Chief：廣田 和美

Section Editor：浅井 隆 井上莊一郎 江木 盛時 小田 裕 垣花 学  
川口 昌彦 蔵谷 紀文 齋藤 繁 角倉 弘行 山蔭 道明  
山本 達郎

〔Journal of Anesthesia Clinical Reports Editorial Board〕

Editor-in-Chief：山蔭 道明

Section Editor：浅井 隆 磯野 史朗 井上莊一郎 江木 盛時 小田 裕  
垣花 学 川口 昌彦 上村 裕一 齋藤 繁 角倉 弘行  
土田 英昭 照井 克生 橋本 悟 平田 直之 廣田 和美  
山本 達郎

〔「麻醉」編集会議〕

委 員：浅井 隆 稲田 英一

【国際交流委員会】担当常務理事：萬 知子

委 員 長：横山 正尚

副 委 員 長：川前 金幸

委 員：大嶽 浩司 奥富 俊之 垣花 学 齋藤 洋司 萬 知子

〔英語ホームページリニューアル専門部会〕

部 会 長：齋藤 洋司

部 会 員：浅井 隆 大嶽 浩司

【関連領域検討委員会】担当常務理事：白石 義人

委 員 長：白石 義人

副 委 員 長：住田 臣造

委 員：有村 敏明 橋本 悟 細川 豊史 月山 淑

〔集中治療領域検討部会〕

部 会 長：橋本 悟

部 会 員：内野 博之 貝沼 関志 山口 修

〔ペイン領域検討部会〕

部 会 長：細川 豊史

部 会 員：岡本健一郎 服部 政治

〔緩和領域検討部会〕

部 会 長：月山 淑

部 会 員：中谷 俊彦 橋口さおり

〔救急領域検討部会〕

部 会 長：有村 敏明

部 会 員：足立 健彦 清水 直樹 武田 吉正 田勢長一郎

多田 恵一 谷川 攻一 谷口 巧 中川 隆

外 部 委 員：坂本 哲也 野々木 宏

◆ ECC 講習会支部担当責任者ワーキンググループ

W G 長：田勢長一郎

メ ン バ ー：石川 雅巳 伊関 憲 今泉 均 漢那 朝雄 境田 康二

間渕 則文 水本 一弘

オブザーバー：多田 恵一

◆ 救急救命士の気管挿管実習の現状と今後を考えるワーキンググループ

W G 長：多田 恵一

メ ン バ ー：川前 金幸 谷川 攻一 西脇 公俊 森崎 浩

【教 育 委 員 会】担当常務理事：稲田 英一

委 員 長：稲田 英一

副 委 員 長：佐和 貞治

委 員：上園 晶一 大江 容子 川口 昌彦 北口 勝康 鈴木 康之

高田 真二 松永 明

オブザーバー：工藤 一大

◆ 専門医研修プログラム検討ワーキンググループ

W G 長：大嶽 浩司

メ ン バ ー：足立 健彦 上村 裕一 水本 一弘 森松 博史 山口 重樹

オブザーバー：稲田 英一

◆ シミュレーションセンターワーキンググループ

W G 長：上村 裕一

メ ン バ ー：尾原 秀史 下出 典子 中島 芳樹 二階 哲朗 水本 一弘

◆ 産科麻酔検討ワーキンググループ

W G 長：奥富 俊之

メンバー：加藤 里絵 角倉 弘行 照井 克生

◆ 小児麻酔検討ワーキンググループ

W G 長：木内 恵子

メンバー：大畑 淳 香川 哲郎 鈴木 康之

◆ 心臓麻酔検討ワーキンググループ

W G 長：野村 実

メンバー：小出 康弘 竹内 護 山田 達也

〔認定審査委員会〕

委員長：稲田 英一

副委員長：内野 博之 大嶽 浩司 北口 勝康

〔第1部会（専門医認定）〕

部会長：佐和 貞治

木内 恵子 小坂橋俊哉 重見 研司 山口 重樹

(筆記試験) 松本美志也 (問題作成責任者)

大塚 将秀 (問題作成副責任者)

奥富 俊之 川股 知之 坂口 嘉郎 下山 恵美 祖父江和哉

田中 克哉 恒吉 勇男 寺嶋 克幸 橋口さおり 尾頭希代子

藤野 裕士 萬 知子

(口頭試験) 山口 重樹 (問題作成責任者)

木山 秀哉 倉田 二郎 蔵谷 紀文 小森万希子 佐藤 暢一

鈴木 孝浩 山浦 健

(実技試験) 廣瀬 宗孝 (問題作成責任者)

小澤 章子 合谷木 徹 中塚 秀輝 濱田 宏 原 哲也

水本 一弘

〔第2部会（指導医認定）〕

部会長：内野 博之

部会員：飯田 宏樹 北口 勝康 寺嶋 克幸

〔第3部会（認定医, 認定施設認定）〕

部会長：鈴木 康之

部会員：小川 幸志 森崎 浩 横山順一郎

〔第4部会（研修プログラム認定）〕

部会長：大嶽 浩司

部会員：香取 信之 鈴木 健二 藤野 裕士 森松 博史

【安 全 委 員 会】担当常務理事：西脇 公俊

委 員 長：瀬尾 勝弘

副 委 員 長：西川 精宣

委 員：河本 昌志 坂口 嘉郎 澤 智博 森松 博史

〔偶発症例（肺塞栓）専門部会〕

部 会 長：森松 博史

部 会 員：入田 和男 黒岩 政之 讃岐美智義 津崎 晃一 中塚 秀輝

オブザーバー：中村 真潮（外部委員） 宮脇 卓也

〔JSAPIMS 周術期情報システム専門部会〕

部 会 長：澤 智博

部 会 員：讃岐美智義 萩平 哲

オブザーバー：足立 健彦

〔医薬品適正評価対策専門部会〕

部 会 長：西川 精宣

部 会 員：岩崎 達雄 奥田 泰久 北村 晶 白石 義人 中馬理一郎

〔CCP 専門部会〕

部 会 長：河本 昌志

部 会 員：大嶽 浩司 横田 美幸

〔麻酔機器・麻酔手技安全対策専門部会〕

部 会 長：坂口 嘉郎

部 会 員：佐和 貞治 祖父江和哉 萩平 哲 松本 尚浩

◆ ICD 制度協議会加盟ワーキンググループ

W G 長：河本 昌志

メ ン バ ー：稲垣 喜三 白石 義人 森本 裕二

◆ 安全な中心静脈カテーテル挿入の手引き改訂ワーキンググループ

W G 長：西脇 公俊

メ ン バ ー：河本 昌志 柴田 康之 竹内 護 田中 克哉 徳嶺 譲芳

◆ 悪性高熱症ガイドラインワーキンググループ

W G 長：河本 昌志

メ ン バ ー：磯野 史朗 市原 靖子 菊地 博達 向田 圭子

◆ 周術期禁煙ガイドラインワーキンググループ

W G 長：飯田 宏樹

メ ン バ ー：甲斐 哲也 久利 通興 中川 雅志 森松 博史

◆ アナフィラキシーへの対応ガイドラインワーキンググループ

W G 長：森松 博史

メンバー：高澤 知規 原 哲也 光畑 裕正 山浦 健 萬 知子

◆ 局所麻酔薬中毒への対応ガイドラインワーキンググループ

W G 長：西川 精宣

メンバー：小田 裕 酒井 規広 土井 克史 祖父江和哉

◆ ヘルシンキ宣言の和訳作成のガイドラインワーキンググループ（仮）

W G 長：西脇 公俊

メンバー：市川 高夫 近江 明文 白石 義人

◆ 誤薬防止のためのシリンジラベル薬効別色分けの提言検討ワーキンググループ

W G 長：祖父江和哉

【広報委員会】担当常務理事：萬 知子

委員長：萬 知子

副委員長：上山 博史

委員：稲垣 喜三 加藤 里絵 坪川 恒久 藤中 和三

オブザーバー：上村 裕一

< 特別委員会 >

【周術期管理チーム委員会】

委員長：落合 亮一

副委員長：川前 金幸

委員：足立 健彦 稲田 英一 近江 禎子 大嶽 浩司 河本 昌志

上村 裕一 木山 秀哉 齋藤 繁 中塚 秀輝 森崎 浩

外部委員：石橋まゆみ 萱島 道德 栗田 浩 柴田ゆうか 関谷 秀樹

原田 俊和 平野 博美 舟越 亮寛 三枝 典子 峯村 純子

宮地 哲也

〔周術期管理チーム認定審査委員会〕

委員長：落合 亮一

副委員長：稲田 英一 佐和 貞治

委員：上村 裕一 土田 英昭

外部委員：平野 博美 三枝 典子

◆ 周術期管理チーム認定ワーキンググループ

W G 長：森崎 浩

メンバー：稲田 英一 木山 秀哉

外部委員：柴田ゆうか 舟越 亮寛 宮坂 善之

◆ 周術期管理チーム試験問題作成ワーキンググループ

W G 長：落合 亮一

メンバー：飯田 良司 石川 岳彦 印南 靖志 上嶋 浩順 角山 正博  
草間 宣好 小坂 康晴 近藤 一郎 佐藤 健治 柴崎 雅志  
田中 聡 田中 直文 長崎 剛 新山 幸俊 丹羽 康則  
橋口さおり 原 芳樹 古井 郁恵 坊垣 昌彦 間宮 敬子  
武藤 理香 山浦 健 山口 嘉一 萬 知子

◆ 周術期管理チームテキスト作成ワーキンググループ

W G 長：河本 昌志

メンバー：川股 知之 鈴木 利保 角倉 弘行 坪川 恒久 藤原 祥裕  
森松 博史

◆ 周術期管理チームセミナーワーキンググループ

W G 長：木山 秀哉

メンバー：上山 博史 川股 知之 中塚 秀輝

【麻酔博物館事業検討委員会】担当常務理事：齋藤 繁

委員長：木内 恵子

副委員長：齋藤 繁

委員：奥富 俊之 菊地 博達 武田 純三 土手健太郎 牧野 洋  
松木 明知 釘宮 豊城

〔麻酔博物館 館員〕

館長：武田 純三

館員：奥富 俊之 菊地 博達 釘宮 豊城 齋藤 繁 土手健太郎  
牧野 洋 松木 明知

〔ISHA 誘致検討専門部会〕

部会長：菊地 博達

委員：奥富 俊之 齋藤 繁 土手健太郎 中田 善規 牧野 洋  
松木 明知

【利益相反委員会】

委員長：齋藤 繁

副委員長：萬 知子

委員：鈴木 健二

【支部委員会】

委員：牛島 一男 尾崎 眞 川前 金幸 鈴木 利保 西川 精宣  
山崎 光章 横山 正尚

【支 部 運 營 委 員 会】

(北海道・東北支部)

支 部 長：川前 金幸  
学 術 委 員：国沢 卓之 廣田 和美 森本 裕二  
委 員：石川 岳彦 五十洲 剛 枝長 充隆 鈴木 昭広 鈴木 健二  
住田 臣造 長尾乃婦子 星 邦彦 堀口 剛 山内 正憲  
山蔭 道明

(東京支部)

支 部 長：尾崎 眞  
総 務 委 員：坂本 篤裕 山崎 隆史 萬 知子  
学 術 委 員：稲田 英一 落合 亮一 小森万希子 鈴木 孝浩 寺嶋 克幸  
教 育 委 員：上園 晶一 内野 博之 前原 康宏  
広 報 委 員：澤村 成史 森崎 浩 横田 美幸

(関東・甲信越支部)

支 部 長：鈴木 利保  
総 務 委 員：岡本 浩嗣 鈴木 宏昌  
学 術 委 員：奥田 泰久 川真田樹人 舘田 武志 津崎 晃一  
教 育 委 員：北村 晶 小坂橋俊哉 齋藤 繁 竹内 護  
広 報 委 員：磯野 史朗 照井 克生 山口 重樹

(東海・北陸支部)

支 部 長：山崎 光章  
総 務 委 員：岡崎 敦 白石 義人 中島 芳樹  
学 術 委 員：小澤 章子 谷口 巧 土田 英昭 宮部 雅幸  
教 育 委 員：飯田 宏樹 西田 修 西脇 公俊 藤原 祥裕  
広 報 委 員：重見 研司 鈴木 照 祖父江和哉

(関西支部)

支 部 長：西川 精宣  
学 術 委 員：足立 健彦 中尾 慎一 横野 諭  
教 育 委 員：溝渕 知司  
広 報 委 員：上山 博史  
委 員：川口 昌彦 川股 知之 木内 恵子 北川 裕利 佐和 貞治  
廣瀬 宗孝 広田 喜一 福田 和彦 南 敏明

(中国・四国支部)

支 部 長：横山 正尚  
学 術 委 員：田中 克哉 中塚 秀輝 森松 博史  
委 員：稲垣 喜三 内田 博 加藤 道久 河本 昌志 齊藤 洋司  
白神豪太郎 高崎 康史 鷹取 誠 松本美志也 森脇 克行  
萬家 俊博

(九州支部)

支 部 長：牛島 一男  
総 務 委 員：有村 敏明 外 須美夫 山本 達郎  
学 術 委 員：垣花 学 北野 敬明 坂口 嘉郎  
教 育 委 員：上村 裕一 川崎 貴士 山浦 健  
広 報 委 員：瀬尾 勝弘 恒吉 勇男 原 哲也

## 5. 2016年度関連諸団体委員等一覧

### 【日 本 医 師 会】

疑義解釈委員会：齋 藤 繁

### 【日 本 医 学 会】

評 議 員：外 須美夫  
連 絡 委 員：稲 田 英 一  
医学用語連絡委員：槇 田 浩 史  
代 委 員：浅 井 隆  
利益相反委員：萬 知 子

### 【厚生労働省医道審議会標榜医審査会】

委 員：稲 田 英 一 森 本 裕 二 工 藤 一 大 土 田 英 昭  
中 尾 慎 一 西 脇 公 俊 上 村 裕 一 萬 知 子

### 【日本専門医機構麻酔科領域専門医委員会】

委 員 長：上 村 裕 一  
委 員：山 田 芳 嗣 山 口 重 樹 小 板 橋 俊 哉 重 見 研 司  
中 尾 慎 一

### 【日本専門医機構麻酔科領域研修委員会】

委 員 長：大 嶽 浩 司  
委 員：森 松 博 史 鈴 木 健 二 藤 野 裕 士 香 取 信 之  
槇 田 浩 史 重 見 研 司 恒 吉 勇 男 横 田 美 幸

### 【外 科 関 連 学 会 協 議 会】

委 員：齋 藤 繁 落 合 亮 一 森 崎 浩  
懇 談 会：鈴 木 宏 昌 竹 内 護 佐 藤 哲 文

### 【外科系医学会社会保険委員会連合】

処 置 委 員 会 委 員：寺 嶋 克 幸  
検 査 委 員 会 委 員：土 井 松 幸

実務委員会委員・手術委員会委員：横 田 美 幸  
手術委員会（コーディング WG）：澤 智 博  
手術委員会（医療材料・医療機器 WG）：土 井 松 幸  
麻酔委員会：山 田 芳 嗣 落 合 亮 一 横 田 美 幸 岩 瀬 良 範

【日 本 救 急 医 療 財 団】

理 事：花 岡 一 雄  
心肺蘇生法委員会委員：多 田 恵 一

【日 本 蘇 生 協 議 会】

委 員：多 田 恵 一

【3 学会合同呼吸療法士認定委員会】

派 遣 委 員：落 合 亮 一 川 前 金 幸 中 澤 弘 一 妙 中 信 之  
山 田 芳 嗣

【日 本 歯 科 麻 酔 学 会】

監 事：小 板 橋 俊 哉

【全 国 M C 協 議 会 連 絡 会 世 話 人 会】

世 話 人：多 田 恵 一

【全 国 医 療 安 全 共 同 行 動】

委 員：西 脇 公 俊

【禁 煙 推 進 学 術 ネ ッ ト ワ ー ク】

委 員：西 脇 公 俊

【日 本 医 療 安 全 調 査 機 構】

委 員：西 脇 公 俊

【医 療 ガ ス 設 備 等 安 全 確 保 に 係 る 問 題 検 討 委 員 会】

委 員：白 石 義 人

【ISO/TC121 国 内 委 員 会】

委 員：森 松 博 史

【JIS 原 案 作 成 委 員 会 委 員】

委 員：森 松 博 史 大 嶽 浩 司

【人 工 臓 器 治 療 関 連 学 会 協 議 会】

委 員：藤 野 裕 士

【臓器移植関連学会協議会】

委員：齋藤 繁

【緩和ケア普及啓発事業関連団体協議会】

委員：齋藤 洋司

【抗血栓療法中の区域麻酔・神経ブロック ガイドライン作成ワーキンググループ】

委員：佐倉 伸一 角倉 弘行 森松 博史 中本 達夫

【World Federation of Societies of Anesthesiologists (WFSA)】

Executive Committee：稲田 英一

○Permanent Committees

Constitution：大嶽 浩司

Publications：廣田 和美

Safety and Quality of Practice：前川 信博

Scientific Affairs：土田 英昭

○Subspecialty Committees

Pain Relief：長 櫓 巧

○Working Party

Manpower Committee：山 蔭 道明

Professional Wellbeing Working Party：森 田 潔

【Asian and Australasian Regional Section (AARS)】

Treasurer：大嶽 浩司

以上